2020 明治安田生命 J3 リーグ 第 29 節 vs. 藤枝 MYFC

11/21（土）15:00 kick off　@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

岐大通 2020

新型コロナウイルス感染症対策のため、当分の間『岐大通』の配布方法はこれまでと異なります。ご理解のほど、よろしくお願いします。

2020J3■順位表■第28節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績（岐阜から視て）

1	秋田	68p	+41	49	8	H●	A●
2	長野	49p	+18	40	22	H●	
3	鳥取	47p	+8	38	30	A○	
4	相模原	47p	+4	34	30	A●	H△
5	岐阜	46p	+11	45	34	---	---
6	今治	46p	+9	29	20	H△	A○
7	熊本	46p	+8	46	38	H○	A○
8	鹿児島	43p	+5	41	36	A○	H●
9	富山	41p	+9	44	35	A○	H△
10	藤枝	40p	+2	42	40	A●	
11	福島	33p	−7	38	45	A○	H●
12	沼津	32p	−4	29	33	A△	H○
13	岩手	32p	−16	26	42	H△	A○
14	Ｇ阪23	29p	−9	35	44	H○	
15	八戸	25p	−14	34	48	A○	
16	讃岐	24p	−15	29	44	H△	
17	YS横浜	23p	−25	33	58	H○	A△
18	Ｃ阪23	20p	−25	24	49	A●	H○

※勝点、得失点差が同じ時は同順位とし、リーグ戦終了時に直接対決結果で決定（H&A実施完了時のみ）

次回HomeGame

第31節 vs.ガイナーレ鳥取
12/5（土）15:00
@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

大酒泉場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休　午後３時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩３分。
休：月曜日

today's guest：藤枝MYFC

2019 J3 18勝９分７敗　勝ち点63：３位

直近の対決と結果
2020/08/02 J3 - ８節@藤枝サ
藤枝 3-1 岐阜 川西翔太 scored.

ここ３試合の公式戦の結果	
FC岐阜	藤枝MYFC
2020/11/18　J3 - 28節@長良川 岐阜 3-0 Ｃ阪23	2020/11/18　J3 - 28節@藤枝サ 藤枝 1-0 沼津
2020/11/14　J3 - 27節@ソユスタ 秋田 1-0 岐阜	2020/11/14　J3 - 27節@えがおＳ 熊本 2-3 藤枝
2020/11/07　J3 - 26節@長良川 岐阜 0-0 富山	2020/11/08　J3 - 26節@藤枝サ 藤枝 0-0 今治

藤枝MYFC：

「ネットオーナーシステム」（喩えると、競走馬の共同所有のように、インターネットを介して多くのオーナーを募ってクラブを運営する方法。英国発祥の『MY FOOTBALLCLUB』が基本）によってスタートしたクラブ(現在は「ネットオーナー」サイトは閉鎖)。当時、静岡県リーグ１部に所属していた古豪・藤枝ネルソンを吸収することで2009(平成21）年創設。翌年には東海リーグ１部の静岡FCを統合し、条件付きで東海リーグ参入。2011(平成23)年に地域決勝(当時)で準優勝しJFL昇格、志太地区からは藤枝ブルックス(現・アビスパ福岡)以来の全国リーグ参入となる。2014(平成26)年のJ3創設によりＪリーグに参加。（吉田鋳造）

●残り７試合、大詰めとなった2020年Ｊ３リーグ。11/18（水）第28節・ホームＣ大阪U-23戦は、前半から岐阜が精力的に攻撃を仕掛けるが、精度を欠いて無得点。しかし、後半開始から＃10川西翔太が投入されると攻撃が活性化。後半９分に＃35 レレウ、19 分に＃24 粟飯原尚平がゴールを決めると、23 分にはオウンゴールを奪って一気にたたみかける岐阜。結果は３－０での完封勝利、ホームでは６試合ぶりに勝利を挙げることができた。

今節のＪ３リーグは、無敗の首位・秋田が勝利し２位・長野が敗れたため、秋田の優勝が決定した。その２位・長野との勝ち点差３に５チームがひしめきあっている状況で、シーズン終盤になってもＪ２昇格レースは正に大混戦の様相だ。そして、今節勝利したＦＣ岐阜は、順位を６位タイから５位に上げ、長野との勝ち点差も６から３に迫った。ただし、６位・今治と７位・熊本との勝ち点差はなく得失点差のみ、今後は得失点も重要な要素になってくるだろう。この大混戦サバイバルレースで最後まで生き残るためには、目の前の１試合を最後まで集中して走りきり、戦い抜いて勝ち続けるしかない。そして望みは繋がったが、僕らは２位になったわけでもない。残り６試合、今後も楽観視はせず、しかしポジティブに、このシーズンを最後まで戦い続けよう。

さて、今節の対戦相手は藤枝ＭＹＦＣだ。Ｊリーグ最多指揮および勝利記録を持つ石﨑信弘監督のもとで、昨季はクラブ最高順位の３位に。石﨑監督体制３年目の今季は、シーズン序盤はつまづいたがその後は３連勝するなど勝利を重ね、前半を５位で折り返す。だがシーズン後半になると勝てなくなり、後半はわずか２勝で現在は 10 位に後退。しかし、その２勝は前々節・熊本戦と前節・沼津戦での連勝で、調子を取り戻したチームと見るべきだろう。そして、初対戦だった前回の 8/2（日）第８節・アウェイ戦は、ゲーム全般を通して藤枝にボールを支配され、シュートを撃たれる内容だった。後半アディショナルタイムに＃10 川西翔太が意地の１点を返したが、結果は３－１での敗戦。シュート数も６－23 と圧倒された。中２日の超過密日程で難敵との再戦だが、このホーム戦ではリベンジを果たさなくてはならない。

藤枝で最も警戒すべき選手は、やはり現在 14 ゴールでＪ３得点ランク１位タイの＃９大石治寿だろう。直近５試合でも２ゴール、藤枝の総得点の３分の１を叩き出すこの男を自由にさせないことが、まずは岐阜の守備陣に求められる。また、＃20 森島康仁は４ゴールながらアシスト８はリーグ３位タイ。前回対戦でも１Ｇ１Ａを決められている。そして、＃14 谷澤達也、＃18 枝村匠馬、＃30 松岡亮輔といったＪ１で 100 試合以上の経験を持つベテラン選手たちも要注意だ。藤枝には、かつて岐阜に在籍した＃７水野泰輔（13 ～ 16 年）、＃34 清本拓己（13 ～ 15 年、関市出身）もおり、彼らは古巣対戦に燃えているだろう。このように、メンバーが充実しているのも藤枝の特長だ。

全国的に新型コロナ感染が急速に拡大し、開催中止になる試合も再び出てきたＪリーグ。僕らも充分に感染防止対策・観戦ルールを遵守した上で、勝利を目指して自分を信じ仲間を信じて、最後まで走り続ける選手たちの背中を後押ししよう。そして、ホーム連勝を達成して、試合終了後には観戦ルールと社会的距離を守りながら、その歓喜を選手たちと分かち合おう。
（ささたく）

投稿募集！！ gidaidohri@gmail.com

ＦＣ岐阜大好き通信（岐大通）11/21号　編集発行：『岐大通』製作委員会　今号の製作担当：ささたく＆吉田鋳造

【第 28 節】岐阜 3-0 Ｃ阪 23

●11 月の平日ナイターは、たぶん初めての経験。５時になると陽が落ちて、ピッチ内練習が始まって照明が明るくなるまでの、外の暗いことといったら（苦笑）。まあ、季節外れに暖かったのは幸運でした。
さて、秋田に敗れて中３日、この試合の後は中２日で藤枝戦。連戦を考慮しスタメン選手を入れ替えて臨む岐阜。一方でＪ２昇格争いに踏みとどまるために、最下位相手に今日の試合は絶対に勝たなければならない。なので試合開始から積極的に攻撃を仕掛ける岐阜。そして、これまでにはなかった攻撃パターンがいくつか見えたと思う。特にスローイン、今までは誰もボールを受けに来ないから迷ってる場面が多かった。秋田に左右のロングスローで苦しめられたからなのか、今頃になってオフサイドが適用されないことに気づいたのか（苦笑）、『セットプレー』として連動して動いてると感じるプレーが何度も…というか、最初からやりなさいって（笑）。あと、例えば＃11 前田遼一のポストプレーなんかも少し違って見えて、これまでよりも精度が上がってたような。これは相手がユース選手主体のＣ大阪 U23 だったから可能だったのかどうか、今後の試合で気になるところです。ところが、岐阜はシュートを積極的に撃つものの、どうにも精度不足だったり相手に跳ね返されたりで、枠にシュートが入らない。＃18 石川大地、あの２回は少なくとも枠に飛ばしてくれ…（溜息）。前半で枠に飛んだのは＃２橋本和の１本だけじゃないかな？そして相手は若手ばかりだけど技術はしっかりしてるので、これまでは上手く守れているものの、前回の対戦がそうだったように、ちょっとミスすれば失点する危険性がある。攻撃と守備の両面で、不安を覚えながら前半は終了。後半開始直後から、岐阜は＃10 川西翔太を投入することで、攻撃の精度を増す策を採る。すると後半９分、相手Ｇ前で＃11 前田の落としに反応した、今季初スタメンの＃35 レレウが左足で巻いたシュートを撃ち、これが逆サイドネットを揺らして先制点（＆祝・今季初ゴール）！！これで勝利への重圧が和らいだのか、動きが良くなる岐阜の選手たち…というか、最初からやりなさいって（笑）。そして後半 19 分には、カウンターで相手を引きつけた＃35 レレウが逆サイドでフリーだった＃24 粟飯原尚平にボールを渡し、これを＃24 粟飯原がしっかり決めて２点目！そして４分後の後半 23 分には、＃８中島賢星の蹴ったＣＫが混戦のＧ前でオウンゴールを招いて３点目！この後、選手を交替させた（おそらく次節のためだろう）岐阜は、まずは１点を奪うべく攻めるＣ大阪 U23 に少し押し込まれる場面もあったものの、しっかりと守って失点を許さない。また逆に決定機も何度かつくったけれど、惜しくも４点目は生まれない。結局、その後は得点が動かずに３－０で試合終了。そしてホームで６試合ぶりの勝利。いやー、なんか絶望的な試合しか見てなかったから、この勝利は格別な気がします！（笑）この試合の個人的ＭＶＰは、やはり＃35 レレウ。まだ少しチーム戦術に馴染んでいない部分もあるけれど、それを補ってあまりあるキックの精度と運動力がある。今後の活躍にも期待したいです、はい。
もちろん、最下位の対戦相手に勝利するのは当然と言えば当然。もしも勝てなかったら “シーズン終戦” だったろう。とはいえ『勝利は最高の特効薬』だし、３得点を奪えたことで攻撃陣に “ケチャドバ” 効果も期待できる。そして最後までＪ２昇格争いを盛り上げたいのか、長野さんが負けてくれた（苦笑）ので、まだ僕らにも可能性が残されている。ここで大事なのは、目の前の一戦だ。今節もしっかりと勝つこと。どんな形でも勝ち続けること。選手は中２日で非常に厳しいコンディションだと思うけれど、僕らの応援で後押しして、そして連勝達成を信じている。
（ささたく）

●前節、岐大通・若桜戦号に「見る者には太々しさが必要なのかもしれない。」と書いて投稿したまではよかったが、太々しさの『ふ』の字すら持つことが出来なかった前半。呆れてモノが言えない、どころではなく、本気でヤンマー長居の再現あるんじゃないか？と震えてたハーフ・タイム。それが、ああいう結果になり、ジェットコースター（これ以外の表現を知らないくらいには昭和）的な試合展開に加え、終了後に見た他会場の試合結果に心身共に容量超えて、思わずベッドにへたり込んでしまったんだけど、自分のせいじゃないよね？何というか、良くも悪くもヒドイ（苦笑）。今節の対戦相手は平均年齢が 19 歳を超えてるかもしれないけど二十歳は超えてないでしょうという U-23 どころか、もう一世代若いチーム。本気で昇格狙ってるんなら、最低限が勝ち点３で、問題は得点数。それぐらいの意気込みを見せてもらっても差し支えないハズだったんだけどね。前半と後半の差はある意味あからさまになってしまったんで、次のチャンスを掴むには相当な精進が必要だと思う。頑張ってほしいな。
先制した時には「あ〜、コレで何とかなるだろ。」と思いつつも「この期に及んで、得失点差なんてゼイタクは言わないが、紛れもあるから早めにもう一点！」と祈ってたところへ若桜のバー直。ホント、肝が冷えましたワ。心臓に悪いよ。
それでも、左で撃って枠に入れば決まります！みたいなアイちゃん、スゴイ！「勝ったな。」と思いましたね。あとは透馬か。ほんの僅かにタイミングがズレたように見えたけど、アレはそのままシュートまで持ち込んで欲しかったな。実に惜しいチャンスだった。終盤にはヒラトモさんの勘違いもあったが、DAZN 観戦の自分も「決まった！」と思ったことを告白しておきます。
それにしても、願ってもない展開になってきた昇格争い。まだまだ他力本願なところがあるので勝ち続けることで圧もかけていきたいね。まずは、この藤枝戦。勝ちましょう！
（ぐん、）

●評価にあたって『割引』がいる試合だと思った。久しぶりの公式戦だった大地は、周囲が見えてないなあ……という感じで、でも連戦が続く今季はサブメンバーの充実ってのが通常シーズンよりも重要で、だからちゃんと状態を上げてきてほしい……って、もう何試合もないんだけどね（苦笑）。一方、逆の評価だったのがレレウ。フィジカルも強くてなかなか倒されず、粟飯原のゴールにつながるパスも出せた。いい感じ。
しかし、「相手が U-23 チームだったから」という点は、しかもスタメンの過半数が高校生だったという話と合わせて『割引』がいる。Ｃ大阪 U-23 を視ていて「チームの『勝ち点３』を目指す度合いが違う」と思った。勝ちたくないとか言ってるんじゃなくて、チームの目的が基本的には「トップチームで通用する選手の育成」で、だから劣勢になった時に戦い方を変えてでもとにかく勝ち点を得ようとする、という色は薄くなる。軍事用語で言うところの『状況を開始する』というヤツだ。軍隊が訓練の際に、環境をリアルに作ることは出来ないので、「これこれこういう状況だと想定して、その状況に対応した行動を取れ」という訓練をする。その「状況に応じた行動をせよ」の合図が『状況を開始する』。この試合でも、Ｃ大阪 U-23 は試合の行く末をどうこうというより、選手の経験値を上げることに重点を置いているように、ぼくは感じた。
だから、この試合で岐阜が出来たことが他の対戦相手でも出来るとは考えない方がいいと思う。逆に、前半のような雑でいい加減なプレーをしていると、一気に仕掛けられてあっという間にフィニッシュまで持っていかれるだろう。それは、アウェーでの藤枝戦で十分に経験していることだ。まさか、「監督が替わったからそんな黒い過去は忘れた」なんてことは、ないだろうね？
（吉田鋳造）